

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600398		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	平成25年1月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373600398-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373600398-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成25年1月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は、高齢になり身体も思うようにならないことも多くあります。今できることを楽しみながら生活できるように、趣向を凝らして地域行事に積極的に参加します。季節や習慣に合わせた献立を考えて「楽しく食べる・生きる喜び」を支援します。「ここに来て良かった」と本人・家族が思えるように支援します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東北の地、遠くに山々が連なり、稲田が広がりを感じさせてくれる。近くにノースビレッジがあり、少し足を延ばせば津山や湯郷へと楽しみにつながる場所に位置している。また自然豊かな中で、入居者は歳時記と共に生活を楽しまれている。地域との交流が多く、保育園・幼稚園・小学校・中学校の子供達の慰問、学習の一環として体験学習を受け入れる一方、事業所からは運動会を見学したり、手作りのさしこの雑巾の差し入れをして繋がりを深めている。管理者は入居者が優しい介護を受けて「ここに来て良かった」と思える事業所になる事を願っている。役割を持って生活できる支援を受け、四季折々の行事を楽しみ、満足して穏やかに生活出来ていることは事業所の優れている点と言える。寒い北風に山茶花の花が舞い散る頃、暖かく、優しいもてなしをして下さる事業所でした。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで確認しながら、理念に添って接遇など、利用者の立場で考えるようにしている。	理念は誰でも見やすい場所に掲示し、共有を図っている。理念の趣旨である「その人を大切に」に基づき、季節ごとにふさわしい月標語を考案して居間に掲示し、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を積極的に行い、地域の保育園・小学校などの慰問もある。地域のお祭りや文化祭などの行事にも努めて参加している。	地域との繋がりは強く、植月コミュニティの文化祭に作品を出展したり、小学校に入居者が作った雑巾の差し入れをしている。保育園・小学校からの慰問、中学生の体験学習、地域のボランティアを快く受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験・文化祭などで認知症の理解をしていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や、行事への参加などを報告し、そのときの意見を頂きながら改善に努めている。	概ね2ヶ月に1回、勝央の役場、民生委員、町内会長、家族代表が参加し開催されている。状況報告、事業所の改善点、行事報告、地域交流、設備工事等について話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず出席していただき、ホームの実情を理解していただいている。困難なときは相談援助をいただいている。	町に転倒事故報告書を提出している。運営推進会議に出席してもらい助言を受けている。町の研修の案内には積極的に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ミーティングで取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員はミーティングにて身体拘束について話し合い、具体的な該当する行為を理解していて、拘束しないケアに取り組んでいる。入居者は役割を持って生活が出来ており、満たされて穏やかに過ごしている。	優しい介護に努め、それによって入居者が安心して生活出来る事により、帰宅願望の訴えが少なくなっている様子。引き続き、入居者が落ち着いて、穏やかに生活される支援を期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ、虐待に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用できるようにしている。権利擁護の利用者もあるので、職員全員が理解できるように研修なども行いたいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行い、運営規程・重要事項説明書などをもとにケア方針などを説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を依頼し、利用者家族の要望を尋ねながら、運営に反映させている。	運営推進会議に参加を促し、意見・要望を聴き運営に反映させている。満足度に関する調査を行い家族の要望を捉えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで要望を聞き、月例報告として毎月管理者会議宛報告し、改善に努めている。	毎月のミーティングを通して職員から提案・要望を聴き、運営に反映させている。職員と管理者の関係は良好で、日常業務の中で気付いた時に運営等の在り方について話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を優先し、家族の介護などを考慮している。資格取得には、協力して勤務希望を優先し、資格取得が出来るように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上、認知症の理解など、意欲のある職員には、研修参加を勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会は少ないが、美作地域の研修会・津山地域の研修会などで情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から困っていることや、希望を尋ねながら、寄り添いなじみの関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、困っていることを聴きながら、要望に添うよう、より良いサービスの向上に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の様子を尋ねながら、どうしたら利用者の幸せか、介護者が困らないかを一緒に考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言をいただきながら、出来ることを一緒にしていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの様子や体調を報告し、生活の様子を理解していただく。また通院介助など出来るだけご家族の協力を得て、情報を共有している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の慣習を訪ねながら、行事に積極的に参加している。	隣のグループホームと一緒に行動して、馴染みの関係を築いている。町内の秋祭りで神輿に立ち寄ってもらったり、正月には近くの日吉神社に出掛け、とんど焼きに参加している。友人を快く迎え、関係が途切れない様支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が楽しく過ごせるようにボール遊び等を行うと、出来ない利用者をお互いが労わり和やかになる。人のお世話が出来る方には、その場面を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても困ることがないように、必要な情報提供を行い、相談援助に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情の中から本人の意思を汲み取るようにしている。意思の疎通ができないときは、家族と相談しながらより良い方法を見つけよう努めて対応している。	側に寄り添い、優しい声掛けにて馴染みの関係を深めて信頼関係を築き、希望・思いの把握に努めている。意思表示の困難な入居者に対しては、表情によるサインを読み取り、思いを汲み上げている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活暦を尋ねて家族や本人が納得できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日常の過ごし方、その日の状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尋ねながら、家族の要望や意見を尊重し、思いが実現できるように努めている。モニタリングを職員全員で行いより良いケアに反映できるように計画書の見直しを行っている。	介護計画は本人の要望を的確に捉え作成している。定期的にモニタリングを行い、サービス計画を検討し、状態に応じて計画の変更をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、バイタル・食事・水分量・排泄の様子・生活の様子やエピソードを記録している。職員間で情報を共有し、より良いケアの計画・実践に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の購入など、相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加し、保育園の慰問小学校の慰問、中学生の職場体験を受け入れながら、楽しみながら生活できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は変更しないで、なじみの医師の訪問診療を受けている。かかりつけ医には職員も相談・助言を受けている。	医療の必要な入居者はすべて、主治医がかかりつけ医の為、往診も可能となっている。受診は選択により、家族・職員が行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態の把握など、変化に応じて受診などの対応をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活や経過などを詳細に連絡し、対応しやすいようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の望みをかなえられるように配慮し、ホームでの対応が可能な範囲を理解していただき、誠実な対応に努めている。	終末期介護は事業所では出来ないことを契約時に説明し、同意をもらっている。経口摂取が困難で、医療の必要度が増せば、事業所では対応困難であることを説明し、他の施設入所の話をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当が出来るように救命救急講習を受講している。急変時には、看護師の指導をうけながら対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームとの合同の避難訓練を実施し、全職員で災害時の対応を理解している。地域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実情を把握していただいている。	年2回、火災訓練を行っているが1回は、隣の事業所と一緒に消防署の立ち合いの下に行っている。緊急時誘導、消防署通報マニュアルは作成してある。避難場所の確認を行っている。災害時用電気ガス製品、食糧の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、情報収集を行い、個人情報取り扱いを管理している。本人の思いを大切に、自己決定しやすい言葉掛け、さりげない介護に努めている。	居室の管理は本人の意志に沿って出来る範囲で行ってもらっている。職員は無理強いせず、いつでも傾聴する態度に努めている。本人のペースに合わせ、その人らしい生活が出来る様支援している。	意志表示が困難な入居者に対する尊重の姿勢は理解はしていても、つい言葉かけが職員の都合での対応になりがちです。少し時間をかけてゆっくりした対応をお勧めします。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で希望を尋ねながら、いろいろな選択肢を提案し、自己決定を促している。自己決定ができないときも職員の都合を押し付けないように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合せ職員は待つ姿勢でケアを行っている。その人らしい暮らし普通の生活を常に心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る方には、その日の衣類を決めていただいている。訪問美容師による散髪などは実情に合わせて行っている。身だしなみに関心が持てるように声掛けを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力により食事の準備・盛り付けなどをしていただく。片付けなども一緒にしていただくこともある。	季節ごとに、一緒に菜園で野菜の植え替えを行い、収穫をしている。また食材として下ごしらえをして、美味しく味わえるよう支援している。店で購入する場合は、地元で採れた旬の物を選び、食への楽しみへと繋げている。メニュー表は入居者が記入している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体重の増減を見ながら、食事の量を調整している。献立や調理を工夫し、満足が出来るようにしている。水分は、摂りやすいように、好みの味や回数などを工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、一人でトイレに行けない方には、排泄誘導表をつけて一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレへ誘導介助している。夜間は、利用者の様子を見ながら誘導介助している。	排泄チェック表を基に随時誘導を行っている。トイレ自立を促すため、場所を大きく表示しており、トイレ内も自力操作しやすいように誘導文書を掲示して自立支援を促している。歩行不安定な入居者の為、ポータブルトイレを設置している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムに合わせ、水分が十分取れるように工夫したり、食物繊維の多い食品や献立を工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日・時間は決めているが、本人の希望を優先している。	週2回、曜日・時間は予め決めているが、本人が拒否する場合は、希望を聴き、本人本位の対応をしている。時には入浴剤を使用したり、季節になれば、柚子湯などを楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて休憩や入眠が出来るように環境を整えている。安眠に向けての生活のリズムを大切にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて服薬介助を行っている。服薬しやすいように粉碎したり、薬剤師と相談しながら服薬介助している。薬の変更や状態は、全職員に申し送り、医師と連携して状態の把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持っていただいている。達成感を味わうことが出来るように、それぞれの得意分野の仕事と一緒にいただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出の機会を設けている。買い物・支払いに出かけるときも同行し、外の空気に触れ、気分転換が出来るように支援している。	紅葉狩りに那岐山へ遠足、ノースビレッジで園内の風景を楽しみ、近くの公園で花見、正月明けには神社へどんど焼きに出かけている。また秋祭りやコミュニティーの文化祭に参加し、気分転換に散歩に出かける等、外出の機会が多く生活の潤いとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を管理することは出来ないが、一緒に買い物に行ったり、物の値段を見る・買いたいものを選ぶこともある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話をかけることもある。返信のはがきの表を書くこともある。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関はいつもボランティアにより、季節のお花がいけてある。居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>玄関には生け花が飾られ、入居者が集まる居間の壁には一緒に制作した色鮮やかな作品が飾られて彩を添えている。配席に気を配り、気持ちよく過ごせる様配慮している。居間続きにテラスが増築され、広がり感と新緑の頃には安らぎとなる様工夫されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った人同士がテーブルを囲んで話し合ったり、一緒に過ごすなど自由に過ごしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の思い出の品や、作品を飾ったり居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>本人の能力、性格、行動を考えベットの配置をしている。各部屋にはカレンダーが置いてあり、日にちや季節の確認が出来るよう配慮している。家族の差し入れ、居室にて本人の趣味を楽しめるよう支援している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合わせた安全な環境にしている。衣類など出しやすいように、整理整頓を行っている。居室には、目線の高さで名札をかけている。</p>		